

R13b GLADE-AKARI/FIS 近傍銀河カタログ：開口測光・SED フィット

諸隈 佳菜、大坪 貴文 (ISAS/JAXA)、土井 靖生 (東京大学)、竹内 努 (名古屋大学)、植田 稔也 (デンバー大学)

銀河における星形成を理解する上で、遠赤外線の情報是不可欠である。Spitzer, Herschel 衛星によって、特定の近傍銀河に対する詳細な遠赤外線観測は精力的に行われているが、無バイアスな全天サーベイ観測による、最新の近傍銀河カタログは、未だに “IRAS Revised Bright Galaxy Sample” (BGS, $60 \mu\text{m}$ のフラックスが 5.24 Jy より明るい銀河のカタログ, Sanders et al., 2003, AJ, 126, 1607) のままである。IRAS 衛星と比べて空間分解能・感度共に数倍向上した赤外線天文衛星, AKARI (Murakami et al. 2007, PASJ, 59, 369) の遠赤外線観測装置 (FIS; Far-Infrared Surveyor, $65 \cdot 90 \cdot 140 \cdot 160 \mu\text{m}$, Kawada et al., PASJ, 2007, 59, 389) の点源カタログは構築・公開済みであるが (Yamamura et al. 2010, VizieR Online Data Catalog, 2298), AKARI/FIS の PSF サイズよりも空間的に広がっていることの多い、近傍銀河に特化したカタログは存在しない。そこで我々は、AKARI/FIS による全天イメージングデータ (Doi et al., 2015, PASJ, 67, 50) を使って、近傍銀河の広がった放射を含む総フラックスを計算し、遠赤外線での近傍銀河カタログを構築している。測光対象の近傍銀河は、重力波の電磁波フォローアップのために構築された GLADE 銀河 (Dályá et al., 2018, MNRAS, 479, 2374) の中で、completeness が 100 % となる 37 Mpc よりも近傍の銀河 13,838 天体である。本講演では、測光方法・測光結果の検証 (IRAS BGS との比較)・SED フィットから導出される各種物理量の統計的性質を紹介する。